

　人は自分自身について、思いやりがあり、寛大で、冷静で、意欲的であるなどと考え、自分の行動に対して社会的環境が及ぼす種々の影響を軽視しがちである。冷静さに関しては満点である、と自己採点している人でも、ある社会的環境に置かれたとたん、冷静さを失うことがある。人類の歴史のなかで、「インターネット」とは新しい社会的環境である。一方でインターネットは、時間・空間的な壁を越えて、不特定多数の他者たちとのコミュニケーションを可能にする、というメリットを持っていると同時に、他方では、「対面的相互作用(face-to-face interaction)」では考えられないようなトラブルが生じやすい、というデメリットも抱えている。事実、ネット上における人間行動を研究した社会学者・社会心理学者たちが最初に驚いたことの一つは、ネット利用者が、ネット上において他者たちとやりとりする際に、全く抑制の利かない状態に陥ったり、激昂しやすくなったりすることであった。「ネチケット」、言うは易し行うは難し。そう思う今日この頃です。

（法文学部　桑原　司）